



わたなべ よしまさ
渡辺 佳正
(超党派虹の会)



(仮称) 富士宮市立郷土史博物館基本計画の策定予算を来年度計上にするにあたって

問 建設候補地及び収蔵・研究施設整備についてどう考えているか。

部長 基本構想で示した3か所に加え、中心市街地の市所有地を検討している。今後、候補地が増える可能性もある。収蔵施設は博物館の整備と並行して進める。調査研究施設は博物館に必要な機能なため基本計画に位置づけていく。

問 全員協議会で候補地として挙げた駅前交流センターきらら駐車場を、なぜ具体的な候補地として答弁しないのか。

副市長 きらら駐車場については、市の内部調整もできていない状況。

意見 内部調整もできていないのに、具体的な候補地として名前を挙げるのはおかしい。

問 「市民とともにつくる博物館」であるならば、基本計画策定委員会には公募の市民委員を5人くらい入れたらどうか。

部長 議員の意見を真摯に受け止めて検討していきたい。

人穴小学校 PTA から求められている小規模特認校制度について

問 令和7年度から実験的に実施しては。

教育長 令和7年度からの実施はできないが、実現に向けて準備を進めていく。

問 小規模特認校制度の募集を市民に広く知らせることや、通学の不安についてどう考えるか。

教育長 小規模校の良さをオープンスクールのような形でやってみて、不安を解消するためにも時間的な余裕が欲しい。



▲市内どこからでも通える小規模特認校



やまふじ ようこ
山藤 陽子
(公明会)



耳が聞こえにくい高齢者や難聴者に対する窓口業務について

問 窓口への軟骨伝導イヤホン導入について。

部長 現状において、窓口対応等で不都合が出ている状況ではない。聞こえの悪い方への配慮として窓口で引き続き、助聴器を使用する。

問 窓口に、高齢者で耳の聞こえの悪い方に説明プレートを用意することは。

部長 看板については設置の方向で考えていく。

防災教育及び自主防災組織の地域防災力の向上について

問 防災リーダー養成講座を開催し、受講した人を地域の防災サポーターとしてはいかがか。

部長 毎年6月に災害時地域リーダー研修会を開催。約300人が参加。地域の防災サポーターの先駆者として平成14年度から消防団分団長

経験者を中心とした防災指導委員を15名選任し、自主防災組織の活動に支援、実施している。市としても自助力、共助力を高めるために必要な講座について調査研究していく。

市長 城山区長が防災士で、やっぱり中心になる人、防災士がその地域にいるといないとでは、こんなにも違うのかと認識した。各地区に防災士が誕生するように、市としても努力していかなければいけないと痛感した。

問 防災リーダー研修会にイメージTENを取り入れられるか。

部長 イメージTENに限らず、DIG、HUGの図上訓練※は全て対応できるように職員は取得している。今後、しっかり周知して、出前講座や小中学校でも要望あれば対応していく。

※図上訓練とは…防災や減災に関する知識や技能を身に付けるために実施される訓練。地図や見取り図を用いて、災害を具体的にイメージし対応を検討する。